

SHOW HEY シネマルーム

★★★

トランスポーター

配給/アスミック・エース

2003 (平成15) 年2月9日鑑賞

Data

監督: ルイ・レテリエ

製作・脚本: リュック・ベツソン

出演: ジェイソン・ステイサム/ス

ー・チー (舒淇) / マット・

シュルツ/フランソワ・ベル

リアン

👁️👁️ みどころ

高額な報酬と引き換えにプロの運び屋「トランスポーター」を演ずるのは、ニュースーパーヒーローを目指すジェイソン・ステイサム。リュック・ベツソン製作・脚本の活劇だが、しょせんそれだけの作品。ただし台湾女優スー・チー (舒淇) はいいよ……。

— * — * — * — * — * — * — * — * — * — *

<ニュー・スーパー・ヒーローの誕生か?>

題名の『トランスポーター』とは「運び屋」のこと。これが主人公フランク・マーティン (ジェイソン・ステイサム) の職業だ。フランクは元イギリス空軍のパイロット。今は退役して年金生活だと名乗っているが、実は……。

フランクは<ルール 1>質問はしない

<ルール 2>依頼品をあけない

ことを絶対的な契約事項として徹底させた上で、高額な報酬と引き換えに危険を承知でちょっとヤバい各種の「荷物」を目的地まで運んでいる。したがってトラブルに巻き込まれたときの武力、体力、知力は超一流。かつてのアーノルド・シュワルツェネッガーやシルベスター・スタローンにかわる新しいスーパー・アクション・ヒーローである最近観た『トリプルX』の主人公ヴィン・ディーゼルと並ぶ若手アクション・ヒーローの誕生かもしれない。そしてリュック・ベツソンの製作・脚本が売りものの作品だ。

<導入部はカー・アクション>

冒頭、度肝を抜くのは、強盗団3人という「荷物」を愛車に乗せて警察の追跡を振り切って、目的地まで「運ぶ」カー・アクション。言ってみれば、そりゃ無茶苦茶。リュック・

ベッソン監督のSF大作『フィフス・エレメント』（97年）と同じようなカー・アクションだ。もっとも「フランスの警官ってアホばかりでんナ・・・。」と思ってしまうが、それはあくまで主役の引き立て役だから仕方ないか・・・。

＜問題の「荷物」は美女＞

縦150cm×横50センチ、重さ50kg未満の「荷物」の運搬を頼まれたフランクはこれをOKした。しかし運びの途中愛車がパンクしたためトランクを開けると、トランクの中の「荷物」はもぞもぞと動いていた。フランクは迷った挙句、ジュースを飲ませてやるために、自らに課したルールを犯して、荷物を開け、口に張られたテープを少し破って、ジュースを飲ませてやってしまった。そしてすべてのハプニングはここから始まることになった・・・。この美女ライを演じるのはスー・チー（舒淇）。台湾生まれのベッピンさんだ。

＜悪役と介添役は・・・＞

主役のフランクを引き立てる悪役はウォール・ストリート（マット・シュルツ）。ウォールも武芸達者で結構やるものの結果は敗北。もちろんわかっていることだが・・・。またこの映画の介添役というべき登場人物がタルコーニ警部（フランソワ・ベルリアン）。いかにもフランス映画の警部らしく、プロはプロだが、ユーモアがあるし融通がよく利く。ストーリー自体はしょせんあまり大した事はないが、この老練な警部とフランクとの会話のやりとりはさすがフランス流でちょっと洒落が効いている。とりわけフランクの愛車、BMW750について、「ドイツ人は〇〇だが、車作りの腕だけはいいネ」とほめるあたりのせりふがいかにフランス的で面白い。

＜スカッとさせるもの・・・＞

どうもこの手の映画は私は面白くない。スカッとするといえざるもの、後に何も残らない。もともと物語自体は別にどういことがない上、いまさらあの肉体派スーパーヒーローに憧れて身体を鍛えようとも思わないし・・・。せいぜい台湾の女優は可愛かったなという程度の印象しか残らない。どちらかというスカッとさせる映画より、心に残る映画の方がいいですね・・・。

2003（平成15）年2月12日記